

ソーシャルワークの理論と方法(専門)

問題 115 ソーシャルワークにおける契約に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 ワーカーとクライアントとの契約によって、クライアントのみが支援の対象となる。
- 2 ワーカーが重点を置いている課題の解決について契約が結ばれる。
- 3 誤解や訴訟を減らす手法として、書面での契約を採用する。
- 4 契約内容については、支援の終了まで変更のないことに合意して結ばれる。
- 5 クライアントとワーカーそれぞれの問題解決に対する責任性が高まる。

問題 116 事例を読んで、この段階でA市社会福祉協議会のB職員(社会福祉士)が担うソーシャルワーカーの役割として、次のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

C民生委員や地域住民が中心となって、3年前から商店街の空き店舗を活用した子ども食堂を開いている。独居高齢者やサービスを利用していない障害者など、見守りを必要としている人が多数いると感じているA市のC民生委員は、子ども食堂に日常的に関わっているBへ、「子どもだけでなく、地域全体を見守るようなネットワークをつくれなだろうか。商店街には空いている店舗があるので拠点として利用できないだろうか」と相談した。BはC民生委員の意向を踏まえて空き店舗の活用に取り組むことにした。

- 1 メディエーター
- 2 ファシリテーター
- 3 コンサルティ
- 4 プログラムディベロッパー
- 5 コンビナー

問題 117 事例を読んで、次のうち、**A**母子支援員(社会福祉士)が用いる単一事例実験計画法の記述として、**適切なものを2つ**選びなさい。

〔事例〕

B母子生活支援施設の**A**は、夫の失踪による経済的困窮により6か月前から入所している軽度の知的障害のある**C**さん(28歳)と**D**さん(6歳)を担当している。日頃から**D**さんの泣き声が聞こえているため事情を尋ねると次のように話した。「子ども^{ささい}の些細な失敗に対してイライラし、つい怒鳴ってしまう。子どもも泣くし、私も落ち込んでしまう」。これを聞いた**A**は、「怒鳴りたくなった時の気持ちの落ち着け方について、定期的に私と検討し、実際に取り組んでみませんか」と提案した。また、**C**さんの同意を得たうえで単一事例実験計画法を用いることにした。

- 1 **C**さんに怒鳴られたときの**D**さんの表情を観察し、記録した。
- 2 入所している他の母親にインタビューを行い、**C**さんの課題を把握した。
- 3 **C**さんの怒鳴った回数をグラフ化し変化を可視化する。
- 4 「セルフアンカード・レイティング・スケール」を用いて、**C**さんの気持ちの落ち込みの変化を把握する。
- 5 取組後の**D**さんの変化を観察し、記録した。

問題 118 事例を読んで、次の記述のうち、A総合病院のBソーシャルワーカー(社会福祉士)が面接で把握したクライアントニーズへの対応について、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Cさん(55歳, 男性, 独居)はA総合病院で5年前に糖尿病と診断された。某メーカーの営業職で多忙な日々を過ごしていたCさんは、血糖値のコントロールも良好ではなく、最近の受診も中断していた。ある日、営業中に倒れ、A総合病院に緊急入院となったCさんは医師から「糖尿病は進行している。しかし、まだ改善の可能性(余地)はある」と告げられた。入院中の糖尿病教室で服薬及び栄養指導を受けたCさんであったが、退院後の生活に不安を抱くようになり、Bの元を訪れ「退院後の生活がととても不安で。元の生活に戻ってはいけないと思うのですが、節制した生活をとても一人では続けていくことができないと感じています」と話した。Bは、Cさん以外の糖尿病患者数人からも同様の話を聞いていた。

- 1 主治医に現在のCさんの糖尿病の医学的状況について問い合わせる。
- 2 病院の公開講座で、糖尿病治療に関する医師・患者をシンポジストとするシンポジウムを開催する。
- 3 不安がなくなるよう繰り返し糖尿病教室に参加するよう勧める。
- 4 管理栄養士にCさんへの栄養指導上の課題について確認する。
- 5 院内の同じような課題を抱えた糖尿病患者の自助グループの結成を支援する。

問題 119 事例を読んで、次の記述のうち、Aスクールソーシャルワーカーによるシステム論に基づくアセスメントとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

5年前に妻を亡くしたBさん(35歳)は、子のCさん(11歳)と二人暮らしである。Bさん家族はSNSで知り合った女性Dさん(36歳)と交流があった。Dさんとの再婚を考えたBさんはCさんに相談したところ黙りこみ、まったく口をきかなくなり、学校も休みがちになった。この状況に困ったBさんが、Cさんの担任に相談したところ、Aを紹介された。AはBさんと面接を行い、Bさんがこれまでの経緯について話した。

- 1 勝手に再婚を決めたBさんに対してCさんは怒りを感じている。
- 2 再婚がCさんに与える影響について、BさんとDさんで十分に話し合われていない。
- 3 BさんがCさんに再婚について、十分に説明できていないことが原因である。
- 4 BさんとCさんはお互いの気持ちを十分に話し合うことができない^{こうちやくじょうたい}膠着状態に陥っている。
- 5 Cさんの思春期特有の問題が影響している。

問題 120 事例を読んで、次の記述のうち、A町地域創生課のB職員(社会福祉士)の相談に対し、A町として考えた対応策として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

A町は昔から地域特有の農作物の生産が盛んな地域であったが、近年は農業者の高齢化や後継者不足により耕作放棄地が増え、農業の衰退が地域課題となっている。A町では相談窓口の設置や、新規就農者への助成事業を実施したりしているが、なかなか課題の解決にはつながっていない。

Bは、新しい農福連携を視野に入れた地域課題の解決についてA町農業振興課に相談した。

- 1 人材確保が喫緊の課題のため、公共職業安定所(ハローワーク)に求人申し込みをする。
- 2 A町や近隣の市町村のボランティアセンターに依頼して、農業ボランティア登録の強化をお願いする。
- 3 農業者と就労継続支援事業所や小中学校の協力を得て、農業体験プログラムを企画する。
- 4 隣のC市にある特別支援学校に依頼して、農業実習を必修化してもらう。
- 5 農業振興課主導で、近隣地域の飲食店に地産地消への協力を求める。

問題 121 事例を読んで、次の記述のうち、DWA T(災害派遣福祉チーム)の社会福祉士が主となって行うこの段階での活動として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

A県B市では大型台風の影響によって河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの家屋が被害を受け、複数の避難所が設置された。災害発生の翌日、B市からA県に対してDWA T(災害派遣福祉チーム)の派遣要請が入り、その7日後にチームがB市の避難所に入った。

- 1 避難所等を巡回し衛生管理を行う。
- 2 生活不活病対策のためのプログラムを実施する。
- 3 避難所等において、被災した住民の生活課題のスクリーニングを行う。
- 4 社会福祉協議会と協力し、「BCP」の再検討を行う。
- 5 被災地において報告される情報や在宅等の巡回を通じて要配慮者の把握を行う。

(注) 「BCP」とは、事業継続計画のことである。

問題 122 ソーシャルワークの支援に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 パーソン・センタード・アプローチでは、不適応はその人の問題というより環境の問題と捉え、環境を人に合うように変えたり調整したりする。
- 2 エンパワメント・アプローチは、クライアントが自身の思考パターンを見出し、誤った信念を修正して、内面化された抑圧に対処させる方法である。
- 3 ナラティブ・アプローチでは、クライアントがこれまでに気づいていなかった真実や過去の出来事に対する新たな解釈を見出し、人生を「書き直す」ための助けをする。
- 4 認知行動アプローチは、まず偏った行動を変えることにより思考プロセスの変化を促すための支援方法である。
- 5 課題中心アプローチでは、支援者が専門的な観点から優先順位が高いと判断した課題に焦点を当てて解決する。

問題 123 次のうち、アウトリーチに該当するものとして、**適切なものを2つ**選びなさい。

- 1 ひきこもり当事者に対するSNSやチャットを利用した関係性づくり
- 2 子どもが通う保育所で、いつも迎えに来る母親の代わりに来た父親からの相談
- 3 要介護認定の区分変更申請を受けた自治体の職員による訪問調査
- 4 認知症高齢者のための地域の居場所づくり
- 5 地域イベントにおけるつながりを創出するための街角相談会の開催